救護第1班　3月11日～3月16日　看護師・宮村　多嘉子

地震のあった日、私は休務日であり、熊本市内を離れたあたりで「待機命令」を受けて、自宅へ引き返しました。午後7時前くらいに連絡が入り、身ひとつで午後9時に第1班として出発。石巻に着く13日の昼前まで、途中4時間くらい仮眠をとっただけで、あとはひたすら高速道路を走り、私たちも交代でランクルを運転しました。東北道は道路が波打っていて、仙台に入ると道路の右側と左側でまったく違う光景に。右側は津波のつめ痕で、被災現場に来たと実感しました。

石巻赤十字病院で私たちは中等症エリアを担当、外来部門の廊下にベッドを並べました。私たちが持ってきた20台のベッドも提供しました。患者さんは持病やけがをした人のほか、低体温症の方が多いと感じました。水分も取れず食べるものもない高齢の方々には、点滴を打って毛布で保温し、しばらく様子をみるという対応を行いました。救護のほか避難者の誘導など、みんなで協力して、夜の9～10時頃まで活動を行いました。

16日は巡回診療で高台にある学校へ。体育館に700人くらい避難しているそうで、1階の和室に高齢者、2階の体育館に若い人がおり、皆さんよく協力し合っていて「助け合ってるな」と感じました。短時間の診療でしたが、多くの感謝の言葉をかけられ、また最後に拍手をもらったときには、目頭が熱くなりました。